

防衛大学校本科第51期、理工学研究科前期課程第42期、理工学研究科後期課程第3期及び総合安全保障研究科第7期学生入校式における防衛大学校長式辞

(平成15年4月5日)

新しく春を迎えたここ小原台で、本日、防衛大学校本科第51期学生489名、理工学研究科前期課程第42期学生49名、同理工学研究科後期課程第3期学生5名、総合安全保障研究科第7期学生20名及び本科留学生8名、研究科留学生6名の諸君の入校を受け入れるに当たり、本校の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。またこの式典のため、悪天候にもかかわらず全国から遠路はるばる来られましたご子弟のご両親、ご親族におかれましては、ご子弟のご入校を衷心よりお慶び申し上げます。



第7学校長代 西原 正

この入校式を挙げるに当たり、緊迫する中東情勢など公務ご多忙の折、赤城防衛庁副長官^{注(1)}をはじめ、多数の内外のご来賓のご臨席を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。ご来賓の方々がこうして将来の国防の任を担う若人の門出を祝って下さいますことは、彼らにとっても大きな励ましになると信じます。

この式典では4つの異なる課程の入校生を迎えておりますので、順にお祝いと要望を述べたいと思います。

まず本科入校の新生諸君、諸君は多くの受験生の中から難関を突破し、防衛大学校への入校を認められました。本校の目的は、国防に従事する将来の幹部自衛官を養成することにあります。諸君は卒業後幹部自衛官として、自衛隊という大きな組織を動かしていく任務を担うことになります。

本校では文部科学省が認定した大学教育を提供しており、諸君は、基礎的な教養教育を受けた後、人文社会科学系あるいは理工学系の専門分野のひとつを選んで専攻します。そして卒業時には一般大学と同様の学士号を授与されます。自衛隊の指揮官であるがゆえに、基本的教育を受けていることが重要だからです。

そして同時に重要なのは、幹部自衛官になるための基本的な訓練を受け、体力の錬成を図るという点です。防大生は学生舎で居住し、また校友会に加わり、規律と礼節を重んじる生活をしていますが、それは諸君が将来自衛隊という組織を一定の規律の下に効

注(1) 赤城徳彦

率よく動かしていくことができるようになるための訓練です。上官の指揮に従って行動し、また部下に適切な指示を与え、統率していくための経験を積むためなのです。

学生舎生活は、最初は慣れず苦勞するかも知れませんが、やがて諸君は集団生活の重要性を認識するでしょう。諸君は、上級生の指導を素直に受入れて、一日も早く小原台生活に慣れて欲しいと思います。規律は集団生活の基本です。規律のない集団生活は秩序を失います。秩序のないところに自由はありません。真の自由は規律のあるところに存在します。

本校の理念として、「真の紳士・淑女にして、真の武人」ということを掲げてまいりました。これは、武人は紳士・淑女であってこそ、本当の武人であるという意味です。防大は諸君を紳士・淑女として扱います。諸君も紳士・淑女の自覚をもって下さい。要は「よき社会人」として、他人への礼儀、思いやりを大切にするとともに、マナーなどには、常に自分に厳しくあるべきです。そして正義感とフェアプレーの精神を磨く意欲もなければなりません。こうした自己を高める努力こそ、幹部自衛官になる第一歩です。誠実であること、人のために自己犠牲を払うこと、社会のために尽くそうとすること、こうした姿勢が高い道義心を生みます。そして高い道義心が国を愛し、国を守ることへの意欲につながるのです。

三浦半島に位置するこの横須賀とその周辺は、わが国の近現代史において重要な役割を果たしてきました。明治の開国を促したペリー米提督が来航したのはこの近くの久里浜ですし、今年にはペリー来航150周年に当たります。また横須賀は第二次大戦まで帝国海軍の本拠地でしたし、戦後も米第7艦隊及び海上自衛隊の本拠地になっています。学生諸君は、自分たちが歴史的にも政治的にも重要な土地にいることを自覚して、日本の歴史に関心をもってもらいたいと思います。

次に、理工学研究科の前期課程及び後期課程に入校した諸君に、一言述べます。諸君は今後2年あるいは3年の間、部隊や職場を離れて高度の理工学研究に入ります。折角の機会ですから、立派な研究成果を上げて、日本の国防技術の強化に貢献してくれることを望みます。そして同時に、社会政治問題にも関心をもち、あるいは古典文学や歴史書を読むなどして、広い視野を培い、幹部自衛官としての資質の向上に励むことを期待します。

総合安全保障研究科に入校した諸君、諸君はこれから2年間安全保障のさまざまな側面を学問的に捉える機会をもちます。歴史、政治、外交、経済、法律、戦略など多くの次元から安全保障を分析する能力を養ってくれることを期待します。

最後になりましたが、本日入校した留学生の出身国は、インドネシア共和国、大韓民国、タイ王国ですが、その他カンボジア王国、ルーマニア、ヴェトナム社会主義共和国

からの留学生も近々入校が予定されております。これらの諸君が遠く祖国を離れて日本で勉学、あるいは研究に取り組む決意に対して深く敬意を表します。一日も早く、言語、習慣などでの困難を克服して、有意義な防大生活を送り、人間的にたくましく成長してください。そして心の広い国際人として、祖国の防衛の任務に就くよう要望します。防大生も留学生との交流を通して、自分たちの視野を広め、異なる価値観を尊重するようになって欲しいと思います。

いずれの課程の入校生にとっても、豊かな歴史的遺産を継承してきたこの横須賀は、日本の将来を考えるのにふさわしい場所です。遠くに富士の峰を仰ぎ、眼下に広がる太平洋を見下ろしながら、日本の防衛を担うリーダーとしての道を進まんとする諸君のこれからの健闘を祈って、私の式辞といたします。

諸君、入校おめでとう。